

令和7年度 今治市社会福祉協議会『福祉でまちづくり応援成事業』 ～自分のまちをよくするしくみ共同募金助成事業～



〈ありがとうメッセージ ～助成団体より～〉

おかげさまで事業を開催することができました。
今回のような事業で、多数の来場者により、子どもたちや地域の人々の居場所づくりの拠点として地域食堂が根付いてきたようです。
また、子ども達の楽しむ笑顔がたくさん見られて、主催者一同感謝でいっぱいです。ありがとうございました。

このたびは、赤い羽根共同募金のあたたかいご支援を賜り、心より礼申し上げます。皆さまからのご寄付に支えられ、地域食堂をはじめとする活動の中で、多くの方が集い、笑顔を交わす時間が生まれています。
年末に行った餅つきでは、普段は厨房に立つことのない男性たちが外に集まり、杵を手に取りながらおしゃべりに花を咲かせていました。子どもたちは、地域の高齢の方に手を添えてもらいながら餅のつき方を教わり、歓声を上げていました。
一方で厨房では、餅切りが得意なおばさまや、雑煮の味付けに自信のある方などが、それぞれの持ち味を活かしながら活躍されており、自然と役割が生まれ、場がひとつにまとまっていく光景がありました。
誰かが「支える側」「支えられる側」と分かれるのではなく、それぞれが自分らしく関わり、楽しみながら同じ時間を共有する、そんなひとときが、確かに地域の中に育まれていることを実感しています。
福祉とは、万が一のときのためのセーフティーネットであると同時に、日々を生きる人々が自分らしく、心豊かに過ごせることでもあるのだと思います。
そのような場づくりに、皆さまからの募金を活用させていただいていることを、大変うれしく、ありがたく感じております。
これからも、誰もが自然に集い、それぞれの力や思いを持ち寄れる居場所を大切に育ててまいります。
引き続きのご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

共同募金をいただいて国際交流イベントが開催でき、聴覚障がい者や在留外国人への理解が深まり、音声認識アプリ UD トークの利用方法も理解いただけ、多様な人たちに対応するスキルのひとつの普及に貢献できました。ありがとうございました。

つどい場だんだんは介護保険を使わない宅老所として自費事業のみを行い、利用者の利用料、賛助会員費、利用者が刺繍したオリジナルワッペンを縫い付けたタオルなどをセミナーで販売し、収入を得ています。8年目を走る今年度も、赤い羽根共同募金の配分金を受け、「平和があってこそその地域福祉」を基本に、戦争と平和、自由について学び、地域や家族の穏やかな日常を守ることに繋げてきました。今年度は特にタンDEM自転車NONちゃん倶楽部とのコラボで多くの方々と繋がることができました。介護保険の改定が続く中、つどい場だんだんのように小規模で誰でもいつでも気軽に集える場所は、今後更に必要になってくると考えます。つどい場だんだんのような居場所が各地域に増えていくことを望みます。これからも地域の方々やお年寄り、障がいのある方や子どもたちが集い、笑顔で毎日楽しく生きていける場所を一緒に作っていきます。ありがとうございました。

清水地区夏まつりで地域の子どもたちがプロスポーツ（FC今治）やボランティア、そして住民との交流を通じて成長の機会を得られたことは、地域の絆を深める大きな一歩だと感じます。

特に、NPO法人 翼学園の理事長である大野まつみ先生による講演「どの子にも輝く未来がある」が、不登校のお子さんやその保護者の方々への具体的な支援に繋がった点は、非常に意義深い成果ですね。

今後も「共同募金配分金公募事業」を最大限に活用し、多世代が支え合う環境を整えられている活動に活用して参りますので、よろしく願いいたします。

この度は、赤い羽根共同募金を通じて温かいご支援をいただき、心より感謝申しあげます。

この機会を通して、朝倉地区の子どもたちだけでなく今治市各地の子どもたちにも広く、子どもたちの成長を支える貴重な取り組みを実施することができました。

ビジョントレーニングや danke 祭を通して、集中力や見る力が高まり、転びにくくなる、姿勢が安定するなどの変化が見られるとともに一人ひとりの困り感が軽減され、日々の生活への意欲向上につながりました。実際に取り組みに参加して下さったご両親からも「日々の生活の中でも子どもの心身の成長を強く感じるようになりました。」「この取り組みが広く今治市の親子さんに広がればいいなと思います」などの好意的な意見も聞かれました。地域の未来につながる活動として、大切に活かしてまいります。ありがとうございました。